

## 平成24年度上半期 直轄工事の事故発生状況（速報値）

**平成17年度に次ぐ発生状況、特に工事関係者事故は最悪のペース！**

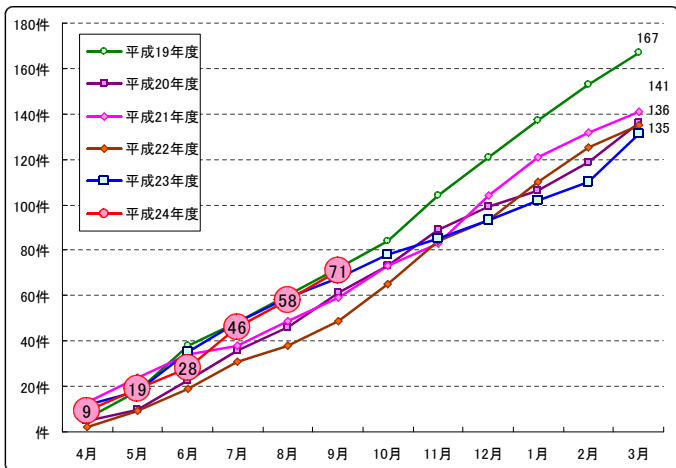


表-1 年度別事故発生件数(累計)

### 事故分類別の発生状況

■工事関係者事故が21件発生しており、集計を開始した平成16年度以降最多の発生件数である。(表-2)  
また、死傷者数(負傷者13→20名、死者0→2名)も増加。

■もらい事故は、集計を開始した平成7年度以降最多の39件となっている。

■第三者人身事故(4件)及び管理施設損害事故(21件)は、昨年度同時期からそれぞれ1件、6件の減少、第三者損害事故(25件)は1件の微増である。

### 工事事故防止重点対策項目の事故発生状況

■工事事故防止重点対策項目の内、工事関係者事故にかかる項目は12件発生しており、昨年同時期から墜落事故が4件増(4件)、資材等の飛来落下が5件増(8件)で、**昨年度全体の発生件数5件を大幅に上回る12件発生している。**(表-3)

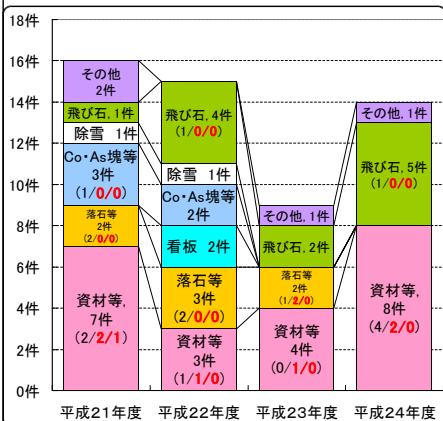


表-4 飛来・落下事故発生状況

### 平成24年度上半期の事故件数

■上半期(9/25時点)の発生件数71件は、平成17年度の72件に次ぐ高位の件数で、もらい事故を含めると**過去最多の110件**となっている。(表-1)

■特に7~10月にかけて43件(H17以降最多)と多発しており、昨年度の33件から10件の大幅増である。(表-1)

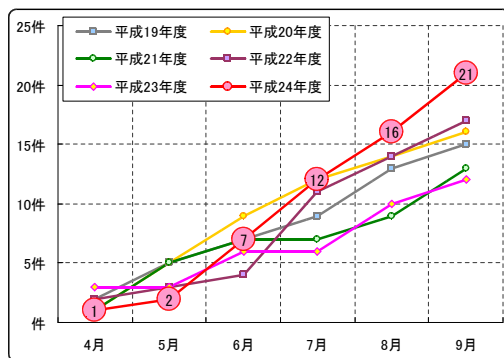


表-2 工事関係者事故発生件数

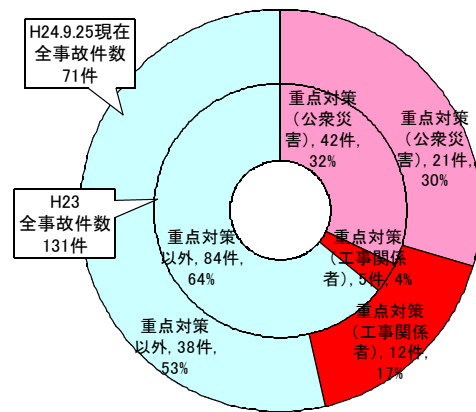


表-3 重点対策項目の事故発生割合

■飛来・落下事故全体が増加しており、**資材・仮設材及び工具の飛来落下事故では昨年1年間の4件(負傷者1名)から8件(負傷者6名)の大幅な増加である。**(表-4)

■飛び石事故も昨年度1年間の発生件数2件を既に3件上回る5件が発生(全て除草作業時の事故)している。(表-4)

■公衆災害事故では、架空線事故が昨年同時期から3件増加(4件発生)しているが、地下埋設物の7件は昨年同時期と同数である。

■車両管理業務における事故は、昨年同時期から1件減少の11件である

# 熱中症による死亡事故が発生！

9/13 11:55 擁壁の足場解体作業で、材料片付けを行っていた作業員(30歳)が調子が悪そうなことに気づいた作業主任者が、作業員に休憩を取るよう指示をしたが、体調が回復せず嘔吐したため、12時半頃救急車を要請、緊急搬送した。

病院での診察により「重度の熱中症で内臓機能の低下」がみられ、集中治療室で加療していたが、4日後に死亡した。

□気象庁観測所(京都)12:00時点

気温 30.4℃、湿度 56%、風速 1.8m/s



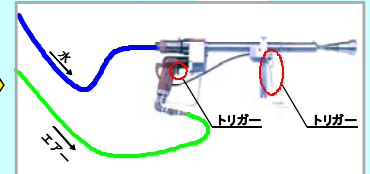
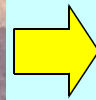
## 厳しい暑さは峠を過ぎましたが 気温の上昇が予想される日は今一度注意を！

### ウォータージェット工法の高圧力水による災害の防止対策

既に「あんぜん」6月号で「ウォータージェット工法」によるはつり作業中の死亡災害について、注意喚起しているところですが、8月に同様の死亡災害が北海道開発局において再発したという情報を受け、近畿地方整備局では各事務所に對して、**ウォータージェット工法を使用する全ての現場について、以下の点検・指導等を実施する**よう指示しています。

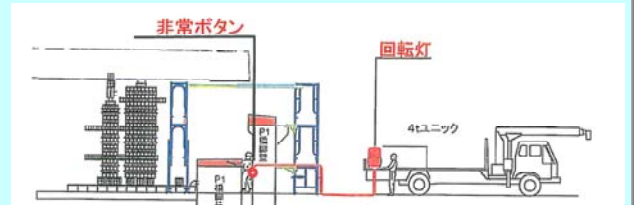
- はつり作業等でウォータージェット工法を使用する全ての現場において以下の事故防止対策の実施状況を点検するとともに、再発防止に向けて受注者を指導する。

- ・ハンドガンのトリガーの保護(ガード等)、トリガーの二重化等放射対策の実施(右図参考)



- 同様の災害を防止する観点から、以下の事故防止対策についても受注者へ周知する。

- ・ハンドガンの筒先が労働者へ向かないようにする措置(立入禁止、筒先の固定化等)
- ・作業時以外の機器停止等の安全措置の指導を徹底する
- ・非常時の緊急停止及び連絡手段(右図参考)を確保する
- ・機器の作業前点検を徹底する



### 機器・設備等の改善とともに、作業員への安全措置の徹底が重要!!

## 台風等による強風・大雨等に注意が必要なシーズンです

下記を参考に、事前の現場の管理・点検を徹底して事故を未然に防止しましょう。

### 強風対策7箇条

- ① 保安施設にご用心 カラーコーンなどが転倒、飛来し、接触の危険があります
- ② 高所の風はよりきつい 地上で風が弱くても、高所では強風の場合があります
- ③ 風は火花を運びます 溶接時の火花が飛散し、火災の原因になります
- ④ クレーン、足場は風に弱い 風圧を大きく受けるので、転倒、逸走、崩壊の危険があります
- ⑤ 海岸、河川は要注意 波浪により施設等が流出するおそれがあります
- ⑥ 強風が吹いた後には危険あり 足場等にズレ、傾きが生じているおそれがあります
- ⑦ 点検巡視は複数で 点検中事故にあった場合、単独では連絡が取れません



### 水害対策7箇条

- ① 排水対策を十分に 降雨量が増えると排水設備の許容量を超える恐れがあります
- ② 穴ぼこ、段差を日々点検 降雨により、バイク事故の原因になります
- ③ 濡れた通路にご用心 濡れた覆工板はすべりやすくなります
- ④ 緩んだ斜面は恐ろしい 切土法面、盛土等は降雨で崩れやすくなります
- ⑤ 機械の設置場所には注意 地盤のゆるみで機械が転倒する危険があります
- ⑥ 大雨の後には安全点検 地盤のゆるみ、崩落、陥没等思わぬ危険があります
- ⑦ 点検巡視は複数で 点検中事故に遭った場合単独では連絡が取れません

## 「第49回 全国建設業労働災害防止大会in近畿」(主催:建災防)

平成24年10月18～19日の2日間、兵庫県神戸市内において全国建設業労働災害防止大会が開催されます

18日13:15～ ワールド記念ホールにて開会式 [谷本局長が出席予定]

19日11:35～ 神戸文化ホール 大ホールにて藤目技術調査課長が講演